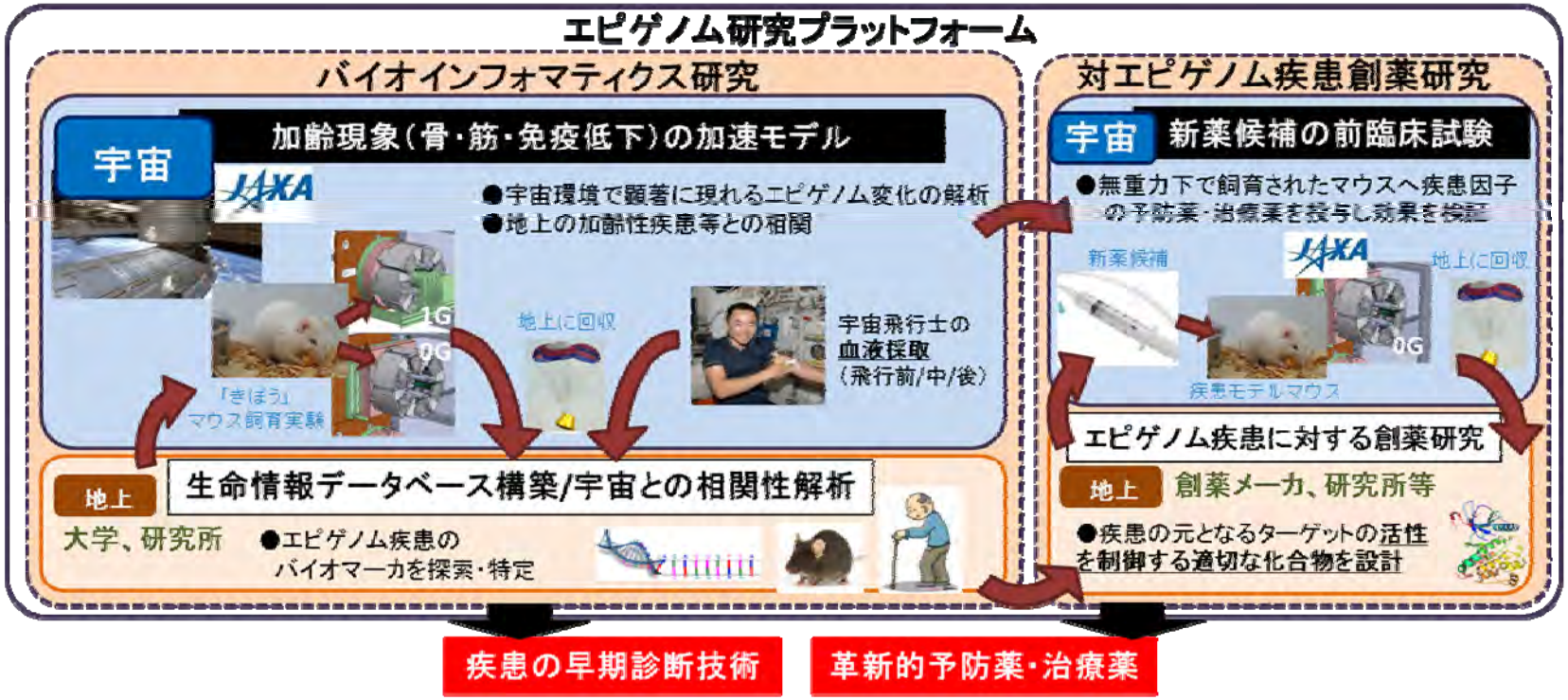
＜参考①(b)＞　「きぼう」利用　健康医療技術研究　エピゲノム疾患研究

微小重力環境は最大のストレス環境の一つ
「きぼう」を利用した加齢研究、エピゲノム研究からオーダーメイド医療に貢献

「きぼう」利用の位置づけ



事業計画

探索・選択	開発・実証	深化・拡大
現在	5年後	10年後

対エピゲノム疾患創薬研究

（疾患モデルマウス確立）

・宇宙での前臨床試験機会を提供
・効果が認められた新薬候補は臨床試験へ移行

新薬候補の特定
→臨床試験へ

バイオインフォマティクス研究（地上・宇宙）

・地上の加齢性疾患（骨減少・筋萎縮・平衡感覚異常等）と宇宙飼育マウスのエピゲノム情報の相関性を解析

疾患早期診断の検査
対象因子の特定

国の戦略的な研究開発（健康長寿社会の実現等）との連携